

江戸時代知望の領主から急ぎの手紙を誂された家臣が、ちょうどこの峠で雨に降られ立ち往生していました。困った家臣は、生えていた茅を編んで蓑を作り無事手紙を届ける事ができました。この話を聞いた領主が、この地に「手蓑」の名を与えたという説があります。ほかにもデモンと発言することから「山頂を表す天」から天野で、それを表記するとき「手蓑」となったのではないかと、といふ説もあります。

江戸時代の手糺は、知覧島津氏氏車役地で杉の手糺があり、土袖は手糺の人の払い下げられ、明治5年頃お茶が植えられました。ところが産育が良好で品質のよいお茶ができたことから、町外から度々客を招き本格的に茶園の拡大に努め、釜炒番茶の製造を行ったといわれ、令和5年の農林水産祭においては、後居北の戸川製茶が天皇杯を受賞しました。

(写真：知覧宮内に天皇杯を展示したときのもの)

江戸時代後半から明治初頭にかけて、池之河内の赤崎・佐々木右衛門が、この地で盛んに製鉄を行っていました。原料となる砂鉄は頼陸の矢越の浜から馬馬で運搬しました。炉は約 1.2m 四方、高さ約 5m ほどの高炉状のもので、自然の切石を用いて築き、その上から砂鉄と木炭を交互に入れて製鉄をおこなっていました。赤崎・佐々木右衛門の業績は拡大し「薩摩の製鉄王」としてその名が知られました。それを物語る当時の水路跡や鉄滓（作業時に出る不純物が残っています）。

知覧茶発祥の地



- ① 旧知覧街道境界標
 - ② 後岳の茶碑
 - ③ 銀山跡
 - ④ ガンコツ水(岸河内の水)
 - ⑤ 旧国道・里程標
 - ⑥ 石橋
 - ⑦ ホソノ神様
 - ⑧ 知覧節歌碑
 - ⑨ 手蓑の由来
 - ⑩ 知覧節発祥の地碑
 - ⑪ 知覧茶モニユメント
 - ⑫ 塔之尾(五輪塔)
 - ⑬ 村元山神
 - ⑭ 忠魂碑
 - ⑮ 仏石
 - ⑯ 旧手蓑小学校跡
 - ⑰ 手蓑小学校開校記念碑
 - ⑱ 水神
 - ⑲ 池之内河内製鉄遺跡
 - ⑳ 山神(池之内河内)